



- ① 公平と平等の心
- ② 人を育てあげる親心
- ③ 恩人に対する感謝報恩の心
- ④ 人の弱さに寄りそう心
- ⑤ 前向きで建設的な心
- ⑥ 自分の苦勞の成果を分け合う心
- ⑦ 物事を独占しない心
- ⑧ 自己に反省する心

慈悲寛大自己反省

モラロジーでは、正しいことが実現されるためには、
人や社会、自然に対する心づかいだけでなく、
自身に対する心づかいという「慈悲寛大自己反省」の精神が求められると考えます。

私たちの立場や気持ちに配慮して、他者の役割や可能性を独り占めしない心です。

⑧ 自己に反省する心…慈悲は人間が不完全な存在であることを前提に、自らの言動を反省する心です。

慈悲とは、一般的には①から④のような人や社会への道徳的な働きかけを連想しがちです。しかし、モラロジーでは⑧に象徴される自己の言動やあり方を振り返り、改めることも含まれています。

すなわち、モラロジーの慈悲をひと言で言えば「慈悲寛大自己反省」と表せます。つまり他者や共同体、自然に対して慈しみを持って寛大な心で向き合い、かつ自己に対して謙虚に反省する精神です。

このようにモラロジーは、慈悲の心づかいの内外への発揮に、自分本位の自己中心的な正義を超えた、人類の安心と平和に繋がる真の正義の実現をみるのです。

したがって、自らの生活の中で、正しいことが実現しない時には、自らが考える慈悲を問い直し、自らの慈悲の「クセ」を把握して改めるところに、慈悲の心づかいを高め、広げていける、品性の向上へのヒントが隠されているのです。

第二部 実践編 第六章 正義と慈悲 三、正義を実現するための慈悲

モラロジー研究所の概論講座で使用される改訂『テキスト モラロジー概論』について、今月は第六章の三の「正義を実現するための慈悲」を図解します。



モラロジーを楽しく、平易に学びたい——。そんな要望にお応えして、この連載では改訂『テキスト モラロジー概論』の内容を図で解説します。ご自身の学習に、あるいは勉強会の資料としてご活用ください。

構成＝「れいろう」編集部

正義を実現するための慈悲

教育研究室研究員 江島頭一 (えしまけんいち)

私たちの生活の中で、正しいことが実現するには、慈悲の精神が求められます(前号)。では、その慈悲という言葉からは、具体的にどのような心づかいを思い浮かべるでしょうか。

改訂『テキスト モラロジー概論』では、慈悲の心づかいを次の8つのあり方で説明しています。

- ① 公平と平等の心…慈悲は差別をせず、誰に対しても分け隔てのない心です。
- ② 人を育てあげる親心…慈悲は人の成長を願い、見守る親心のようなものです。
- ③ 恩人に対する感謝報恩の心…慈悲は私たちを支えてくれている恩人に感謝の気持ちで報いていこうとする心です。
- ④ 人の弱さに寄りそう心…慈悲とは人間にいたわりをもって、人間をやさしく受け入れる心です。
- ⑤ 前向きで建設的な心…慈悲は人の幸福や社会の発展を願って、何事にも粘り強く努力する心です。
- ⑥ 自分の苦勞の成果を分け合う心…慈悲とは自ら苦勞して得た成果を他者や社会と分け合い、生かし合おうとする心です。
- ⑦ 物事を独占しない心…慈悲は周囲の人